

福 議 委 号  
令和6年2月20日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

総務教育常任委員会

委員長 藤山 大



所管事務調査報告書の提出について

令和5年12月12日福島町議会定例会12月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第148条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	6 福島松前間防災道路実現に向けた取り組みについて	7 定住促進住宅整備事業について
調査期間	令和6年2月14日	
出席委員	委員長 藤山 大 委員 杉村 志朗 委員 平野 隆雄	副委員長 熊野 茂夫 委員 木村 隆 委員 溝部 幸基
委員外議員	議員 佐藤 孝男 議員 平沼 昌平	議員 小鹿 昭義
出席説明員	町長 鳴海 清春 企画課長 村田 洋臣 企画課企画係長 澤田 元気	町長 鳴海 清春 企画課長 村田 洋臣 建設課長 紙谷 一 企画課企画係長 澤田 元気
議会事務局職員	事務局長 鍋谷 浩行 主任 角谷 里紗	係長 福井 理央

## **[委員会意見]**

### **調査事件 6 福島松前間防災道路実現に向けた取り組みについて**

(令和6年2月14日調査)

一般国道228号線白神防災事業については、松前半島道路のうち通行止めが頻発する白神・松浦間について、防災事業を優先し事業の早期着手を「松前半島道路建設促進期成会」等を中心に要望活動を進めた結果、令和5年度新規事業として採択されたところであり、この度、防災道路の事業促進・早期完成に向けた町の今後の取り組みについて調査したので、調査結果を報告する。

#### **【論点とした調査項目・意見】**

一般国道228号線白神防災事業の事業促進・早期完成に向けた今後の取り組みについては一定の理解をしたが、次の事項について検討されたい。

##### **(1) 早期完成に向けた要望活動等について**

期成会を中心とした要望活動を進めた結果、防災道路整備に向けた事業予算が確保され、測量調査等が開始されたことについては大きな一歩であるが、令和6年度以降も同規模の事業予算を確保できるかは不確定であり、引き続き渡島西部四町の共通理解・協力を得ながら早期完成に向け要望活動を強力に推進する必要があると思慮する。

測量調査の結果やルート等の方向性を決定する経緯については、町民に対して説明会を開催し、町民の理解を得ながら進めるよう望む。

白神防災事業を推進する上で、国・道への要望と合わせて、現道(白神松浦間)の位置づけについて、今後、どの様にしていくのか、十分協議する必要があると思慮するので検討されたい。

##### **(2) 松前半島道路全体の整備要望について**

高規格道路としての松前半島道路の整備は、町が推進する第2青函トンネル構想において自動車運行を重要な視点とし、接続道路として必須であるとしており、松前半島道路全体の整備要望については、第2青函トンネル構想の推進と連動させ、双方の必要性を北海道に積極的に周知、要望されるよう望む。

## **[委員会意見]**

### **調査事件 7 定住促進住宅整備事業について（令和6年2月14日調査）**

町は、子育て環境の充実に取り組んできたが、更なる魅力ある子育て環境の充実が必要との観点から、子どもを安心して生み育てる住環境を整備することで子育て世帯の定住促進を図るべく「定住促進住宅整備計画」を策定、令和5年度に基本設計・実施設計業務を進めており、この度、令和6年度建設予定の整備事業内容について資料が示されたことから、その内容を調査したので、調査結果を報告する。

#### **【論点とした調査項目・意見】**

建設予定の定住促進住宅整備事業の内容については一定の理解をしたが、今後の建設計画等を進める上で次の事項について検討されたい。

#### **1 ニーズ調査について**

定住促進住宅建設に係るニーズ調査では、現在の住宅に満足していない戸建て住宅世帯が一定数いる一方、現住宅に満足している世帯も居ることや、賃貸方式の住宅を「希望しない」世帯が「希望する」世帯を上回るなどの結果であり、当該事業を進めて行くためには、より深掘りしたニーズ調査の実施・分析が必要と思慮するので検討されたい。

#### **2 家賃の設定等について**

家賃の設定については、新栄町に整備している定住向け町有住宅と同様に民間の家賃相場を参考に今後決定していくとのことだが、当該町有住宅の条例等では子どもが町外に転出するなど入居要件に合致しなくなった場合は家賃月額を1.5倍とすると定めており、そのことが要因で町外に転出して行くことになれば定住向け住宅の整備主旨に逆行することが懸念されるので、入居要件・家賃の設定にあたっては、十分配慮し慎重に検討されたい。

ニーズ調査の結果では、戸建ての持ち家への希望が多く、将来の定住に繋げる施策として、定住促進住宅の個人所有の可能性について、先進地事例を参考に検討すべきと思慮する。

#### **3 今後の建設計画について**

定住促進住宅建設を令和6年度から隔年で1棟ずつ予定し、設計はその都度行うとの説明だが、細部の使い勝手の改良は必要としても毎回設計を行うのは効率的でないと思慮する。過疎債以外の財源が見込めない事業であり、建設資材、人件費等の高騰が続く厳しい状況を踏まえ、最初の設計を基本とするなど経費節減を強く意識して進める必要があると思慮するので検討されたい。